



## 中日青葉学園 わかば館の特色

中日青葉学園長・前わかば館長 寺井 陽一

### 1) 心理治療の取り組み

中日青葉学園わかば館の心理療法担当職員は、以下の項目を軸に働いています。

- 個別の心理療法を行う
- 子どもが暮らす生活の場の中に自然に融けこんだ心理的支援を目指す
- 施設ならではの特徴を最大限に生かし、子どもの生活全般の中で関わりながらアセスメントを行い、他職種と対話しながら多面的に子どもを理解する
- 専門的な知識を分かりやすい言葉で他職種と共有し、より良い支援を模索する
- 自己研鑽に励む。生育歴、現在の生活環境、施設内外での対人関係性や体験等を踏まえ、子どもに適した心理的支援を探したり、アセスメント力を伸ばしたり、学び続ける姿勢を持つ
- 施設の行事や仕事に関して、専門的な視点を持ちながらチームの一員として活動する

わかば館の心理治療は、主にプレイセラピーを軸に行い、それぞれの心理療法担当職員の得意とする分

野で箱庭療法・動作法等も行っています。心理・生活場面の両方に入って、子どもたちと共に過ごしながらか、どんな特徴のあるお子さんなのかを把握し、精神科医への相談や指示を受け、アセスメントや治療計画（ケアプラン）に役立てています。生活場面に入ることで、生活職員と同じ目線で、子どもたちの課題に直に触れながら、日常でできる支援を共に考えたり、心理的コンサルテーションを行ったりしています。月1回の職員会議の中で、“心理ワーク”という短い時間をもらい、現場にリアルタイムで必要だと思われる情報を提供し、異なる視点の投げ掛け、職員のスキルアップにつながる機会となるよう活動しています。子ども間でトラブルがあった場合は、チームの一員として対応し、子どもが職員と一緒に自分自身の課題に取り組めるよう心理教育的なアプローチや心理的ケアに務めています。

### 2) 充実した教育機関との連携

中日青葉学園には、開設時から併設されている公立の教育機関、日進市立北小学校青葉分校と日進中学校青葉分校があります。校舎は中日新聞社会事業団が建てて、日進市に貸与する形態をとっています。



学園外出



学園プレイセラピールーム



分校 スポーツフェスティバル



分校 玉入れ



分校 カルタとり



分校 食事づくり

2023（令和5）年4月1日現在、小学部は21人、中学部は17人在籍しています。中日青葉学園に入所している子どもだけが在籍しています。わかば館の子どもは全員分校登校しており、あおば館の子どもは、半数前後が分校登校し、残り半数前後は本校に通っています。あおば館の子どもの中でも集団が苦手な子どもや虐待をひどく受けた子どもなど手厚いケアが必要な子どもは分校に登校しています。

教員数は、小学部が常勤7人・非常勤4人の計11人、中学部が常勤12人・非常勤2人の計14人で、教頭職が1人・教務職が2人配置されており、手厚い教育を実践しています。

分校の取り組みの特色としては次の3つがあります。

#### ① 独特のカリキュラム

毎日3時限目は「自立活動の時間」があり、体力向上に向けた山歩きやグラウンドラン、漢字検定への取り組み

み、読書や折り紙やコグトレ（認知トレーニング）なども取り入れています。また、本校行事への参加だけでなく、分校独自の活動も企画しており、畑の栽培や収穫、小・中が交流して生徒会主催の全校遊びやスポーツフェスティバル、学園招待行事のサーカス等の参加などがあります。多くの経験を積ませるだけでなく、成功体験を増やして自己肯定感を高める工夫をしています。

#### ② 個に応じた手厚い支援

1クラス5人前後のゆとりある学級経営を行っています。主要科目等は教員2人体制で授業を行い、1人が授業を進め、1人が授業をサポートしています。中には1人だけ別の教室で授業を行う場合もあり、個に応じた手厚い教育を展開しています。

#### ③ 学校・学園との連携

毎朝登校前に、学園での子どもの様子を学校に伝え



たり、学校であった子どもの様子を学園に伝えたりして連携を取っています。毎月1回、学校学園打ち合わせ会で行事や子どもの情報を確認し、月1回の学校学園双方のケース会議では、情報共有のため関係者が出席しています。また、学期に1回学校学園全体で担当者会を行い、長い休みの後の新学期のスタートを大切にしています。

### 3) 併設施設の児童養護施設「あおば館」との連携

わかば館の他の施設との大きな違いはあおば館という児童養護施設を併設していることです。この違いをデメリットからメリットに変える努力を今まで積み重ねてきました。開設当初は、治療施設としてのわかば館の理解が低く、子どもたちにつらい思いをさせることもありました。また両館で「家庭的ケア」と「治療的ケア」の支援方法も違いで意見がぶつかることもありました。当時はそれぞれの支援で精いっぱい併設の強みを生かすことができていませんでした。しかし「青葉学園は1つ」をスローガンに少しずつ連携を深めていきました。合同での行事や部活動の実施。わかば館で治療を終えた家庭復帰が難しい子どもをあおば館に措置変更し、家庭的な環境でのケアに移行したり、逆に問題行動や発達障害などの理由で治療的な支援が必要な子をわかば館に移したりする連携を少しずつ進めてきました。わかば館からあおば館へ措置変更をした子どもがあおば館で問題を起こすこともあり、措置変更前の準備と措置変更後のアフターケアについて1年かけ

て両館でのケース会議を繰り返し青葉学園として子どものケアにあたるように工夫をしています。今後はあおば館・わかば館としてではなく、それぞれの施設の専門性を生かしつつ、中日青葉学園として子どもたちを支えられる施設になっていけたらと思います。



学園 男子ホームリビング



学園 女子居室

